

安倍川治水対策検討委員会のまとめ

本委員会では、安倍川の河道掘削および静岡清水海岸の養浜について、平成16年度から実施してきたモニタリング結果よりその効果を確認し、河道の安定的な低下対策として有効なものであり、当面の河道掘削の基本的な方向について検討をおこなった結果、以下の結論を得たため、今回で委員会を終了する。

モニタリング結果について

1) 把握された事項

- ・2年間において、約20万m³/年の掘削を行ったことによる河道、海岸への悪影響はみられなかった。
- ・掘削の効果としては、みお筋の誘導、土砂移動の促進を見ることができた。
- ・河道内の異常堆積や局所洗掘は認められない。
- ・静岡海岸では、浜が東側にむかって約250m/年 回復している。
- ・清水海岸では、ヘッドランドと養浜により汀線が維持されている。

2) 残された課題

- ・大出水時の河床変動及び海岸への影響が不明（大出水を経験していない。）
- ・長期的な変動傾向が不明。

今後当面の河道掘削方針について

1) 掘削方法は以下のとおりとする。

- ・偏流に対する対策の効果、みお筋の誘導、みお筋の拡大等の効果が認められる為、当面、河道中央付近の掘削をおこなう。
- ・掘削断面は、河道中央付近を幅約50m、計画河床高に対して0.5m程度の余

裕を取って、実施することを標準とする。

- ・掘削箇所は、河口から17k区間と藁科川合流点付近とし、全体として河床は堆積しており、繰り返し、みお筋を維持する掘削も含み約25万m³/年とする。
- ・モニタリング調査により河道、海岸への影響を把握。
- ・掘削による環境については、専門家の指導を仰ぐなど環境に配慮して実施する。

2) 掘削土の利用について

- ・掘削土の優先順位は、治水対策、養浜、骨材資源に活用することとし、別途関係者が調整を図ること。

その他

2年間のモニタリングの中で、残された課題（河道掘削による大出水時の河床変動及び長期的な変動傾向の把握）については、モニタリングを継続し、流域において、総合的に土砂を管理する視点で、早期に別途検討を進める必要がある。

なお、今後も随時状況に応じて、地元（市、水防団、安倍藁科川漁業協同組合、清水海岸浸食防止対策同盟会、安倍川骨材事業協同組合）の意見を聞くこととする。